

中学校におけるキャリア教育としての生徒会活動の展開 ー学びのプロセスを中心にしてー

天 野 慎 也 [鹿児島大学教育学部附属中学校]

Development of student council activities as career education in junior high school:

Emphasis on a learning process

AMANO Shinya

キーワード：中学校生徒会活動、キャリア教育、学びのプロセス、システム思考

1. はじめに

グローバル化の進展や絶え間ない技術革新、生産年齢人口の減少など、社会構造や雇用環境は大きくそして急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。このような状況を踏まえ、新しい時代にふさわしい学習指導要領が平成 29 年 7 月に告示された。特別活動においては、育成を目指す資質・能力が整理されたり、特別活動を要としてキャリア教育の充実を図ることが示されたりした。そこで、本稿では、中学校特別活動の内容の一つである生徒会活動を通して、学びのプロセスやシステム思考の考え方を取り入れながら、キャリア教育の充実を図ることができるのではないかと取り組んだ実践の報告をする。

2. 特別活動について

2.1. 特別活動とは

特別活動とは、様々な集団活動を通して、自己や学校生活を捉え、課題を見だし、その改善・解消に向け、よりよい集団や学校生活を目指して行われる様々な活動の総体である。その活動の範囲は学年・学校段階が上がるにつれて広がりをもっていき、社会に出た後の様々な集団や人間関係の中でその資質・能力は生かされていくことになる。そして、特別活動は、学級活動、生徒会活動、学校行事の三つの内容から構成されている。

2.2. 特別活動の目標

特別活動は「なすことによって学ぶ」ことを方法原理とし特色ある取組が進められてきた。しかし、次のような課題が見られたため、平成 29 年告示の学習指導要領において目標が改善された。課題としては、まず、各活動・学校行事において身に付けるべき資質・能力は何なのか、どのような学習過程を経ることにより資質・能力の向上につなげるのかということが必ずしも意識されないまま指導が行われてきたという実態が見られるということである。また、内

容や指導のプロセスの構造的な整理が必ずしもなされておらず、各活動等の関係性や意義、役割の整理が十分でないまま実践が行われてきたという実態も見られるということである。さらに、社会参画の意識の低さが課題となる中で、自治的能力を育むことがこれまで以上に求められていること、キャリア教育を学校教育全体で進めていく中で特別活動が果たす役割への期待が大きいということである。これらの背景の基、学習指導要領において、**特別活動の目標**は次のように示されている。

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

特別活動が果たすべき役割などを勘案して、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点で目標が整理された。

3. 生徒会活動について

3.1. 生徒会活動の目標

生徒会活動は、全校の生徒をもって組織する生徒会において、学校における自分たちの生活の充実・発展や学校生活の改善・向上を目指すために、生徒の立場から自発的、自治的に行われる活動である。学習指導要領において、**生徒会活動の目標**は次のように示されている。

異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組むことを通して、特別活動の全体目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

学校全体の生活をよりよくするために、集団生活や人間関係などの諸問題から課題を見だし、生徒会活動の様々な場面で話し合っ計画を立て役割を分担し、その解決に向けて自分の役割や責任を果たすなど自発的、自治的に取り組むことを示している。

3.2. 生徒会活動の内容

学習指導要領において、**生徒会活動の内容**は次のように三つの活動に分けられている。

- (1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営
生徒が主体的に組織をつくり、役割を分担し、計画を立て、学校生活の課題を見だし解決するために話し合い、合意形成を図り実践すること
- (2) 学校行事への協力
学校行事の特質に応じて、生徒会の組織を活用して、計画の一部を担当したり、運営に主体的に協力したりすること
- (3) ボランティア活動などの社会参画
地域や社会の課題を見だし、具体的な対策を考え、実践し、地域や社会に参画できるようにすること

特別活動の全体目標に掲げる資質・能力を育成するため、学校の全生徒をもって組織する生徒会において、これらの三つの活動を通して、それぞれの活動の意義及び活動を行う上で必要になることについて理解し、主体的に考えて実践できるよう指導する必要がある。

4. キャリア教育について

4.1. キャリア教育が提唱された背景

キャリア教育が提唱された背景には、情報化、グローバル化、少子高齢化など社会環境の構造的変化がある。この変化の中で、勤労観や職業観が未熟だったり確立が遅れていたり、社会人、職業人としての基礎的資質・能力の発達が遅れているという、学校から社会への移行をめぐる課題と、精神的・社会的自立が遅れたり、自立的な進路選択や将来計画が希薄なまま進学、就職する者が増えたりするという、子どもたちの生活・意識の変容という二つの側面の課題が見られる。

4.2. キャリア教育とは

従来のキャリア教育は、勤労観・職業観の育成のみに焦点が絞られがちであったが、平成23年に中央教育審議会が**キャリア教育の定義**を次のように答申した。

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

キャリア教育を理解するうえで、上の定義における「キャリア」、「キャリア発達」についても正しく理解する必要がある。それぞれ中央教育審議会の答申には、**キャリア**とは「人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだし、いく連なりや積み重ね」であり、**キャリア発達**とは「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」であると示されている。

4.3. キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力とは

キャリア教育の定義における基盤となる能力や態度は、基礎的・汎用的能力として、次の四つの能力によって構成されている。

人間関係形成・社会形成能力

「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。具体的な要素としては、例えば、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等が挙げられる。

自己理解・自己管理能力

「自己理解・自己管理能力」は、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。具体的な要素としては、例えば、自己の役割の理解、

前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等が挙げられる。

課題対応能力

「課題対応能力」は、仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。具体的な要素としては、情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等が挙げられる。

キャリアプランニング能力

「キャリアプランニング能力」は、「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。具体的な要素としては、例えば、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等が挙げられる。

4.4. キャリア教育と生徒会活動との関連

学習指導要領の総則編において、キャリア教育の充実について以下のように示されている。

生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつづつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。

キャリア教育を効果的に展開していくためには、特別活動を要としながら、学校の教育活動全体を通じて必要な資質・能力（基礎的・汎用的能力）の育成を図っていく取組が重要になる。そこで、特別活動の一つの領域である生徒会活動を通して基礎的・汎用的能力を育成し、キャリア教育を充実させることができるのではないかと考えた。

5. 学びのプロセスとは

特別活動の特質に「なすことによって学ぶ」ことがあり、「実践」が大切であるとされてきた。しかし、実際の行動場面だけを「実践」と狭く捉えるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の過程を「実践」と捉え、この一連の過程を「学びのプロセス」とよぶ。本校では「学びのプロセス」を次のように整理している。

① 問題の発見・確認	学級や学校におけるめざすべき姿と比較して、集団生活上の諸問題に気付き、その中から議題や課題を決定・確認し、話合いの計画を立て、解決に向けて自分の考えをもつ。
② 解決方法の話合い	よりよい生活をつくるための課題の原因やシステム、具体的な解決方法、役割分担などについてグループで話し合う。
③ 解決方法の決定	話合い活動で具体化された解決方法等の中から、グループや学級全員で合意形成を図ったり、個人で意思決定したりする。
④ 決めたことの実践	決定した解決方法や活動内容について責任をもって全員で実践する。
⑤ 振り返り	話合いや実践を振り返り、意識化を図るとともに、結果を分析し次の課題解決に生かす。また、実践の継続や新たな問題の発見につなげる。
次の課題解決へ	

これは学習指導要領で示されている生徒会活動における学習過程と一致しており、それぞれの

過程での活動において、生徒が自発的、自治的な学級、学校の生活づくりを実感できるような一連の活動を意識して指導に当たる必要があると言われている。

6. 実践例

この項では、3.2 で示した中学校生徒会活動の内容のうち、(1)の「生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営」に焦点化してその実践例を示していく。なお、図1は本校の生徒会組織図を表しており、生徒会本部は生徒総会や代議員会、専門委員会の企画、運営をしたり、生徒朝会の企画、実施をしたり、学校行事への協力をしたりしている。

6.1. 生徒会目標の設定を通じた組織づくり

生徒会組織が立ち上がり、始めに取りかかるのが生徒会目標を立てることである。まずは生徒の総意による生徒会目標にするため、全校生徒に学校の現状に関するアンケートを行った。その上で、生徒会本部役員で校訓やこれまでの生徒会活動と関連づけた生徒会目標案とその達成のための具体策を考えた。原案ができたなら、役員の生徒がそれぞれ企画委員の職員を中心に目標設定の理由を説明する。出た意見を反映させたものを職員会議で承認を得る。そして、代議員会で役員が説明し、代議員からの承認を得て生徒会目標が上がる。決定した生徒会目標を全校集会の場でスライドを使いながら発表する(図2)。その後、各学級で生徒会目標を掲示し、学級目標とともに生徒会目標を意識して学校生活を送っている。

6.2. 交通マナー向上に向けた話し合い活動

本校は鹿児島市の各地から通学するため、市電やバス、JRなどの公共交通機関を利用して登下校する生徒が非常に多い。そのため、公共交通機関の利用状況やマナーの向上が学校生活上の課題として挙げられることもある。そこで、これまで本校では行われていなかった「交通マナー向上に向けた話し合い」を行うことにした。企画書の作成、班編成、当日の進行は生徒会本部と生活委員会で連携して進めていった。図3は実際に交通手

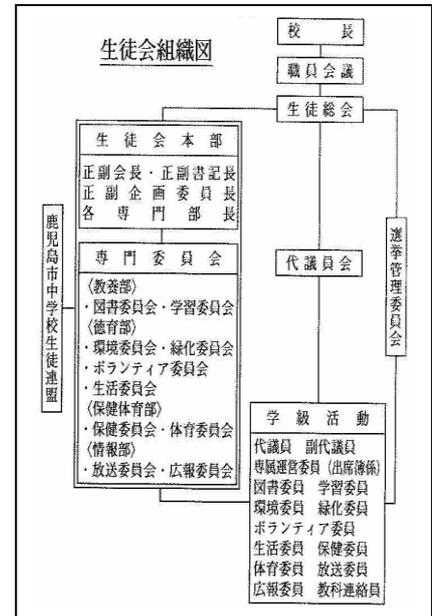


図1 本校の生徒会組織図



図2 生徒会目標を発表するようす



図3 交通マナー向上に向けた話し合いのようす

段ごとに集まって現在の利用状況話し合っているようである。このような活動を生徒会が中心となり自治的に取り組むことで生徒の交通マナーへの意識が向上すると考えられる。

6.3. 確認シートを活用した役割分担と計画立案

生徒が主体的に生徒会活動を計画、運営していくためには見通しをもたせることが非常に重要である。そこで、昼休みや放課後等を使い、図4のような確認シートを用いて、週の初めには今週の見通しをもたせ、週の終わりには翌週、翌々週の見通しをもたせた。このように見通しをもたせることで、生徒たちは生徒会の役割によっては仕事量が多くなることが予想でき、仕事を分担して計画的に生徒会活動を進めていた。

Be Unsung Hero

発行：3月5日(月)

未来へはばたく3年生へ
398の感謝をのせて
～C&T曲む会 2018～

今後の見通し

1班	2班	3班	4班	5班
A・B	C・D	E・F	G・H	I・J

当直【2→3班】 旗【3班→4班】

日	曜	学校行事等	生徒会関係	備考
5	月	職員会議	朝活(1組) Y I K リハーサル	【担当: H, 夢江・手塚: I, J, F】 昼食～昼休み 放課後、多目的H, スポット集合
6	火	公立高校入試(理・理・英) 5校時: 道徳	朝活(2組) 6校時準備 事前活動② リハーサル	【担当: J, 夢江・手塚: A, I, B】 13:10, 体育館 体育館(17:00以降締め切り, パーティション準備)
7	水	公立高校入試(理・数・音楽)	朝活(3組) 5,6校時準備 事前活動③(5,6校時) ★リハーサル	【担当: G・B, 夢江・手塚: F, E】 13:10, 体育館でリハーサル(本番衣装, 放送委員・代議員・壁面委員との連携)
8	木	5校時: 3年式練習 企画委員会 予行練習会場設営 (1年1・2組, 放課後)	朝活(4組) 当直引継 6校時準備 事前活動④(6校時) リハーサル	【担当: I, 夢江・手塚: B, F, E】 13:10, 体育館(D, Eは合唱優先)
9	金	予行練習(2,3限) 5校時: 体育なし 職員会議 囲む会会場設営 (1年3組, 放課後)	朝活(5組) 事前活動⑤(6校時) ★最終チェック	【担当: A, 夢江・手塚: G, D, H】 囲む会会場準備(放課後, 1-3)

当直【3→4班】 旗【4班→5班】

日	曜	学校行事等	生徒会関係	備考
12	月	①道徳 ②式練習 ③囲む会 ④臨時, 同慶会入会式 卒業式会場設営 (2年4, 5組) テスト発表(2年2組5月) ⑤⑥式準備	卒業式を囲む会 式練習後, 一旦卒業生退場	会の進行: 放送委員長 カーテン: 代議員 機器: 放送委員
13	火	第67回卒業式 養子付付(2年1, 2組女子) テスト発表(2年2組男子)	本番前歌唱指導	送辞【A】
14	水	椅子付付(2年3組) 1,2年学年集会 公立高校合格発表	Y I K(昼食～昼休み～放課後)	今後の見通し・分担確認 →随時に報告を!
15	木	企画委員会	当直引継	
16	金	選挙運動(5,6校時)	代議員会, 専門委員長会	副委員長も代議員会に入る

今週の To Do リスト ※変更があれば随時へ報告を!

A	卒業式送辞(国語科の先生へ御指導依頼)をつくる。
E	歌唱指導委員会から企画書を出す。
F	囲む会お祝いの言葉を考える。
I	本部とボランティア委員会とのパイプ役をする。
G	囲む会の監督をする。
C	囲む会合唱「キセキ」の準備をする。3月16日代議員会の準備をする。
H	当直長アイコンを作成する。
D	歌唱指導委員会から列名簿を出す。
J	壁面委員はリハーサルに参加するのを確認する。
B	本部と生活委員会とのパイプ役をする。

その他

- 1) 囲む会
・衣装を準備しておく。
- 2) 掃除ミーティング
環境委員長が企画書を修正したものを生徒会顧問が確認済み、環境委員会の顧問先生にも確認してもらっています。いつでも企画委員の先生方を回れる状態です。フチャランを実施したい。
- 3) 生徒主体集団干校
企画書の修正なし。電灯での並び方が曖昧→どうする?
- 4) 交通マナー話し合い
正副生活委員長に依頼済み、グループの作り方。アンケートの作成、実施、話し合いの流れ、役割分担。今年度中に実施できるか?

図4 確認シート

6.4. 生徒総会における合意形成を図るための工夫

生徒会の最高議決機関に生徒総会がある。本校の生徒総会では毎年非常に多くの意見が発表されている。しかし、全校生徒が約600人いるため、合意に至るのは容易なことではない。そこで提案の仕方を工夫することにした。「きょうだい学級での交流を深めるにはどのような取組をすればいいのか。」という議題に対して、A～Dの4つの案を提案し、それぞれのデメリットを示した(次頁図5)。なお、4つの案は、事前に代議員会や専門委員長会の中で出てきた意見を基に立てた。このように判断材料を含んだ原案を示すことで、話し合いが焦点化されたり代案が出やすくなったりした。最終的にA案, B案, D案の三択となり、一人一票での挙手による投票となった。その場で集計をし、ホワイトボードに書いた集計結果を書画カメラでスクリーンに投影することで合意形成をすることができた(次頁図5右下)。

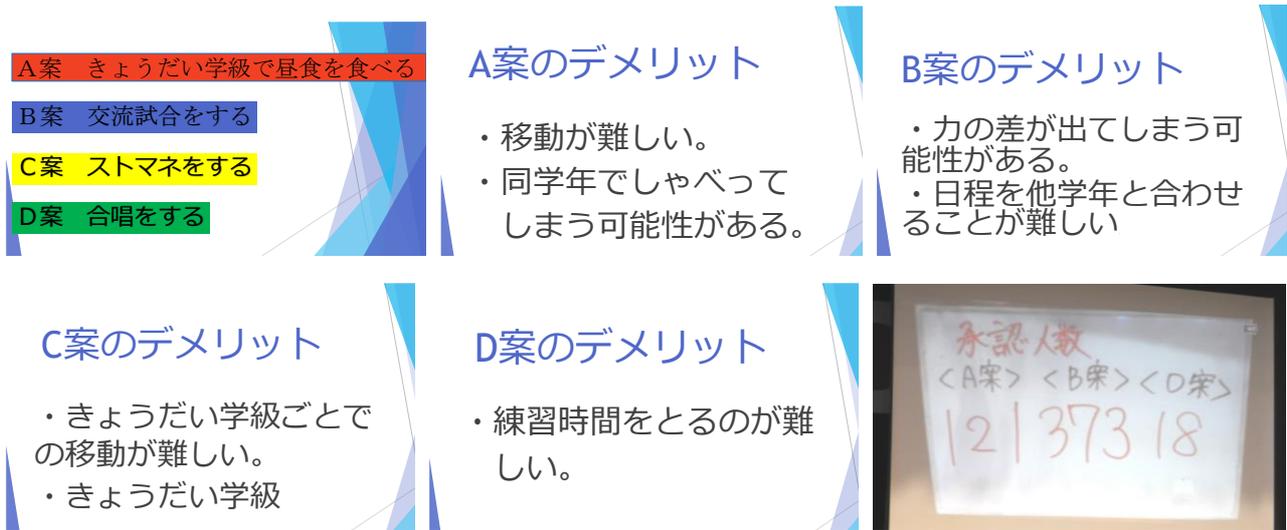


図5 議題に対する原案とそれらのデメリット及び話し合い後の投票結果

6.5. 生徒総会での学びのプロセスの実践

本校では登校時、校門付近や学級園などで挨拶や清掃の活動をしている。この朝の活動を月に一回程度重点期間を設け、きょうだい学級ごとで取り組むように生徒会で企画している。しかし、取組を続けていく中で、一つの作業場所に集まってしまっていて人数が多くなったり、同じ学年の生徒どうしで活動をしてきょうだい学級での交流が少なかったりするなどの問題が生じてきた。そこで、生徒総会の議題を「朝の活動できょうだい学級の交流を多くするためにはどうすればよいか。」にして改善策を話し合った(図6)。本校の学級活動では、話し合いをする際に、一面的な見方を避け安易な解法に頼ることなく根本的な問題解決方法を導き出すように「システム思考」の考えを取り入れている。また、目に見えるできごととは何の理由もなく生じているものではなく、様々な因果関係のつながりの中で生じているという事実を氷山に例えて表現している「氷山モデル」の考えと併用している。総会での話し合いをするにあたり、事前に議長にシステム思考や氷山モデルを用いた学級活動での話し合い活動を意識させ、根本的な解決を促す司会をするように指導した。話し合いの結果は、「一つのグループの人数を減らし、グループの数を増やす」となった。これにより、グループ分けや活動場所の割り当てを変更し、新たに朝の活動をした。以前の活動よりもきょうだい学級で交流しているようすが見られるようになった(図7)。生徒総会の機会をとらえ、全校生徒で問題の発見から解決方法の実践まで学びのプロセスを経ることができた。

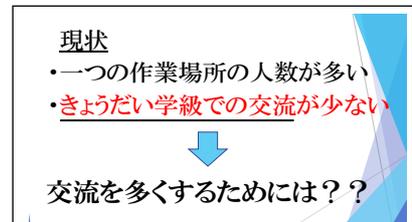


図6 生徒総会でのスライド



図7 改善策を取り入れた朝の活動のようす

6.6. 合唱振り返りシートを通した学びのプロセスの実践

本校の卒業式では、伝統的に卒業生に対して在校生が「タンホイザー行進曲」を合唱する。卒業式前日に行われる「卒業生を囲む会」とともに、卒業生への感謝の気持ちを伝える大切な生徒会行事である。1月下旬に卒業生を囲む会のスローガンが発表されたら、学級活動の授業で「目標設定シート」(図8)にパートや個人の目標を立てた。目標とともに、キャリア教育の視点から、合唱の取組を通して身に付けたい資質・能力を各自で設定し、現状を10段階でスケーリングした。ここには学校行事を通したキャリア教育というねらいがある。目標設定後、卒業式に向けて練習を積み重ねる。この練習を企画、運営をするのは、生徒会本部から立てた歌唱指導委員会となる。昼休みや放課後を使い、パート練習や全体練習を積み重ねていく。練習の最後に振り返りの時間を設け、「振り返りシート」(図9)に練習の反省と目標達成度、次回の目標を書く。これは、学びのプロセスを重視し、課題の設定から振り返りまでの一連の過程を実践となるように意図している。

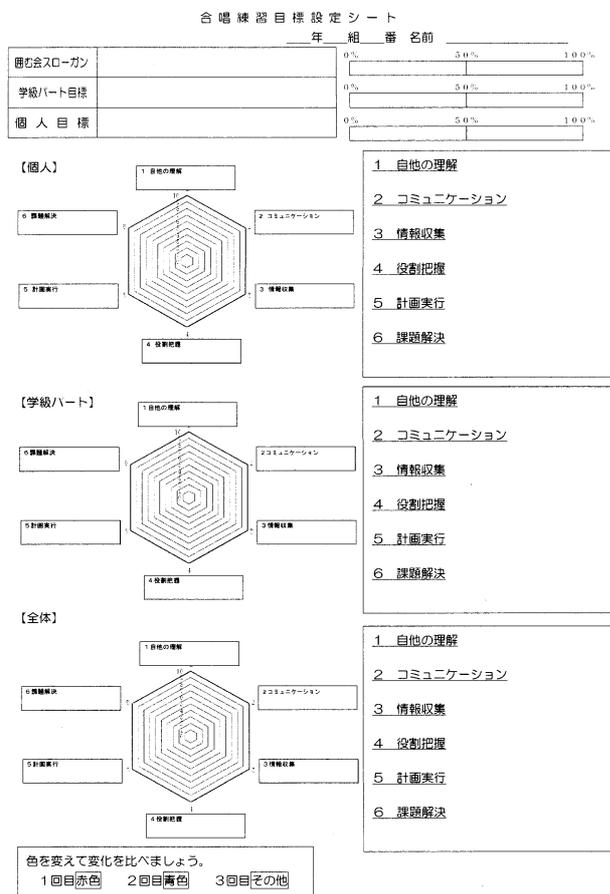


図8 目標設定シート

合唱練習振り返りシート

日付	内容	振り返り	目標達成率 個人① → 全体	次回に向けて	残(日)
1/15 (木)	学年末テスト		0 %		18
1/16 (金)	合唱パート練習		0 %		17
1/19 (月)	合唱パート練習		0 %		16
1/20 (火)			0 %		15
1/21 (水)	きょうだい学級練習		0 %		14
1/22 (木)			0 %		13
1/23 (金)	合同学年集会		0 %		12
1/26 (月)	囲む会事前活動①		0 %		11
1/27 (火)	1年学年・学級PTA		0 %		10
1/28 (水)	2年学年・学級PTA		0 %		9
3/1 (木)			0 %		8
3/2 (金)	合同学年集会		0 %		7
3/5 (月)			0 %		6
3/6 (火)	囲む会事前活動②		0 %		5
3/7 (水)	囲む会事前活動③		0 %		4
3/8 (木)	囲む会事前活動④		0 %		3
3/9 (金)	囲む会事前活動⑤		0 %		2
3/12 (月)	卒業生を囲む会		0 %		1
3/13 (火)	卒業式		0 %		0

図9 振り返りシート

7. おわりに

学びのプロセスを中心にしてキャリア教育としての生徒会活動を展開してきた成果と課題を、キャリア教育アンケートの結果(次頁表1)から分析する。生徒会本部の生徒には約9か月間、生徒会本部として活動してきた平成30年7月に調査を行った。生徒会本部10名のうち9割が3

年生であるため、2年生時の学年全体（回答者数 195 名）のアンケート結果と比較することで、生徒会活動を通しての変容をみることにする。なお、肯定数とは、質問項目に「はい」、「どちらかといえばはい」と答えた人数の合計のことである。

表 1 キャリア教育アンケートの結果（単位はそれぞれ、肯定数は人数、肯定率は%）

	質問項目	生徒会		H29 2年生	
		肯定数	肯定率	肯定数	肯定率
1	自分の考えを相手に上手につたえることができますか	9	90	136	70
2	給食当番や作業の仕事を友だちと協力して行っていますか	10	100	180	92
3	生き方や進路に関する情報を新聞・テレビ・インターネット等を利用して集めたり、それを使ったりしていますか	5	50	122	63
4	集団生活をよくするための役割分担や方法が分かりますか	10	100	166	85
5	あなたや周りの仕事が、あなたの生活にどのように役立っているかが分かりますか	9	90	160	82
6	自分の将来のための進路計画を立てることは大切だと思いますか	10	100	181	93
7	将来の進路のために、目標を立てて努力していますか	7	70	146	75
8	自分で判断し、決めたことには責任がともなうことが分かりますか	10	100	182	93
9	よりよい生活や学習・生き方を目指して、自分から課題を見つけていこうとしていますか	9	90	159	82
10	課題に積極的に取り組み、自分で解決していこうとしていますか	9	90	163	84

キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力との関連は、「人間関係形成・社会形成能力」に関する質問が 1, 2, 「課題対応能力」に関する質問が 3, 4, 9, 10, 「キャリアプランニング能力」に関する質問が 5, 6, 7, 8 となっている。

7.1. 成果

アンケートの結果から、項目 1 の肯定率が 2 年生時より高くなっていることが分かる。全校集会や学校行事など、人前で話す経験が多かったり、自分たちが考えたことを相手に伝えるようにしたりしたからだと考えられる。実際、生徒の記述には「相手に一方的に伝えようとするだけでなく、相手の反応を見ながら伝えようとするようになった。」という意見が見られた。次に、項目 4 の肯定率が高くなっているのは、ミーティングをする際に確認シート（前掲図 4）を使いながら一人一人の状況に応じた分担をしていた成果と考えられる。このことから確認シートの有効性が伺える。そして、項目 6 の肯定率が高くなっているのは、生徒会本部の生徒は、学業、部活動、習い事などと両立させながら生徒会活動をしているため、見通しをもって計画的に物事を進めていく必要性を強く感じているからだと考えられる。さらに、項目 9, 10 が高くなっているのは、学びのプロセスである、課題の設定から振り返りまでの一連の過程を踏まえながら生徒会活動を行ってきたからだと考えられる。このことは生徒の記述にも見られ、「学校の課題を考える中で、自分の生活とも重なる部分が多く、見直すきっかけになった。」、「現状を見つめて分析し、解決策を導けるようになった。」、「課題を見つけたらそれで終わりにするのではなく、失敗しても何度でも実行することの重要さが分かるようになった。」というように考えている。したがって、学びのプロセスを中心にして生徒会活動に取り組むことで、キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力のうち、特に「人間関係形成・社会形成能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」が育成されたと言える。

7.2. 課題

アンケート結果から、項目3と7の肯定率があまり高くないことが分かる。項目3から、生徒会活動の経験が生き方や進路情報を集めたり、使ったりしたいと思う動機づけにはあまりならないと言える。また、項目7が高くないのは、もともと目標を立てて努力していることや、将来就きたい職業や進みたい進学先が明確になっていないことが影響していると考えられる。これらのことから、生徒会活動を通して情報活用能力や将来設計能力を育成していくことが課題と言える。

8 参考文献

- ・ 文部科学省 (2018) 中学校学習指導要領 (平成 29 年告示), 東山書房
- ・ 文部科学省 (2018) 中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総則編, 東山書房
- ・ 文部科学省 (2018) 中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別活動編, 東山書房
- ・ 文部科学省 (2011) 中学校キャリア教育の手引き
- ・ 鹿大附属中 (2017) 自らよりよい未来を創る生徒の育成 (5 年次)
- ・ 土屋雅宏ほか (2018) 創造的な学びのある中学校特別活動 (学級活動) の在り方, 鹿児島大学教育学部実践研究紀要, 第 27 巻, pp. 513-522
- ・ 小田理一郎 (2017) 「学習する組織」入門, 英治出版